



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 「品質」誌の論文投稿システムが変わります
- 2-私の提言 大きな背中
- 2-ルポルタージュ JSQC規格「日常管理の指針」講習会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第128回クオリティ・クルボ/2022年2・3月の入会者紹介/新規研究会の受付
- 4-行事案内/第51年度研究助成 追加募集
- 4-第51年度品質管理推進功労賞候補者推薦募集中

「品質」誌の論文投稿システムが変わります

論文誌編集委員会委員長 森田 浩

この度、学会誌「品質」への投稿は Editorial Managerを通して行うことがすでに開始されています。これまでは主に郵送による方法を取っておりましたが、すでに原稿を手書きすることはほとんどなく、WordやTeXを使って作成されるようになってきていることから、電子システムから直接投稿できることが望まれていました。Editorial Managerは多くの論文誌でも使われていますが、本学会においても、これによってより利便性が向上するものと考えております。また、査読プロセスにおいても、なるべく事務局の人手をかけることなく進められるようになりますので、審査にかかる時間も削減することが期待されます。

運用が始まるといろいろな問題点が出てくることも予想されますし、初めて利用される方もおられるでしょうから、当面の間は現行の投稿方法も維持することといたします。次年度からは Editorial Managerでの投稿に移行する予定です。まずは、次回に投稿いただく際にはご活用ください。

学会誌「品質」のご案内

学会誌「品質」は年間4回発行され、2022年にはVol. 52を刊行しており、50年以上の歴史があります。「品質」は論文誌編と学会誌編で構成されています。今回、Editorial Managerに移行するのは論文誌編への投稿です。

論文誌編には9つの投稿区分があります。学会員であればどなたでも投稿できます。積極的な研究成果の発表や

活動の情報発信の場として、適切な区分を選んでいただけるようになっております。また、最近一般的になってきたオープンアクセス制度もあります。誰でもアクセスできることから研究成果を周知させるのに有効ですので、興味のある方はご活用ください。

論文誌編への投稿論文のうち、1. から6. には審査員による審査制度があり、査読付きの学術論文として認められます。第三者による率直で真摯なコメントによって、普段の仕事や研究活動では得られない新たな知見や提案が得られることもあります。

また、学会賞として、年間を通して特に優秀な論文には「最優秀論文賞」が贈られます。この他に、企業会員による優秀な論文には「品質技術賞」、若手会員による優秀な論文には「研究奨励賞」があります。

論文が掲載されるまでには、さまざまな指摘やコメントに対応をしなければならないこともあるため、決して容易に採択されるものではないですが、ぜひ論文投稿に挑戦してみてください。投稿先は以下の通りです。

<https://www.editorialmanager.com/quality/default1.aspx>

投稿要項も学会ホームページに掲載してあります。みなさまの投稿をお待ちしております。

<https://jsqc.org/post/>

論文誌編の投稿区分

学会誌「品質」には9つの投稿区分

があります。以下に、それらの特徴をまとめておきます。

1. 報文
理論上もしくは応用上独創的な内容を含む完成された研究論文
2. 技術ノート
手法ならびにその応用について新しく価値ある内容を含む研究論文
3. 調査研究論文
実験・実施・調査等実証の方法により得られた価値ある新しい事実・知見等を含む研究論文
4. 応用研究論文
手法や考え方の適用事例について、その適用プロセス並びに結果を深く分析することにより得られた価値ある新たな事実・知見等を含む研究論文
5. 投稿論説
手法や考え方等に関して独創的な命題を提起し論証した研究論文
6. 研究速報論文
新機軸の潜在的な可能性を宣言した速報性のある研究論文
7. クオリティレポート
有益な情報を含む報告
8. レター
品質誌に掲載された記事等に対する客観的な提言や批判の記事
9. QCサロン
会員に対する有益な提言、提案、紹介など会員相互の交流の場としてふさわしい内容の記事

● 私の提言 ●

大きな背中

積水化学工業(株) 飯塚 裕保



私がまだ駆け出しの技術屋だった頃に、自分で開発した製品で大クレームを起こしてしまっただけがありました。苦労を

重ねて開発・上市したのですが、漸く上市したところ直ぐに販売量が増加、日勤帯のラインだけでは生産が追いつかず、毎週夜勤帯に自分で材料を仕込みながら生産を続けていました。

そんな状態が数ヶ月続いて夏場に入り、製品設計に起因するクレームが突如、それも全国各地で同時多発してしまっただけでした。設計段階で十分リスクを抽出し評価したつもりでしたが、

まだまだ実際の現場での「使われ方」や「さらされる環境条件」の想定に抜け漏れがあったのでしょ。ともあれ事業部全体に波及する大クレームでした。

工事現場が滞り、多大なるご迷惑をお掛けしているお客様はもとより、そのお客様への謝罪と製品差し替えに奔走してくれている全国の営業マン、度重なるリカバー生産の為工程調整や納期対応を一丸となって進めてくれる工場各部署の皆さん、新婚旅行をドタキャンしてまでこの仕事に埋没する私に一言も不平を漏らさない家族、どちらを向いても申し訳なく、このまま消えてしまいたい気持ちでいっぱいでした。が、この時の上司は一切私を責めませんでした。彼が掛けてくれた言葉を、私は一生忘れません。「この弱点を

克服できれば、製品がもっと良くなるぞ。」

何て強気な言葉でしょう。それにこの言葉は私には意外でした。当然ですが上司は今回のクレーム全ての責任者として、相当苦しい立場におられたからです。そして何よりこの言葉には「お前に任せるよ、責任は全て俺が取るから。」という、絶対的な信頼感と安心感がありました。お陰で私は気持ちを前向きに切り換え、程なく改良品も上市出来ました。残念ながら彼は去年急逝してしまいましたが、「大きな背中」を見せてくれた大切な方です。

部下が失敗をしたとき、責任を全て飲み込んで彼らを鼓舞し、前向きに動機付けし直す事は簡単ではないと思います。責任感で押し潰される部下や、責任転嫁する部下もいるかもしれません。この時の上司のように振る舞えるか、私はいつも自問しています。問題が起きた時こそ、部下や後輩に安心感を与えられる、「大きな背中」を見せられる存在になりたいものです。

JSQC規格
講習会
レポート「日常管理の指針」
— 日常管理の本質を学ぶ —

JSQC規格「日常管理の指針」講習会が3月15日(火)にオンラインにて開催された。本規格原案作成委員会委員の安藤之裕氏を講師に迎え、参加者は23名であった。今回の講義のサブテーマは、「なぜ日常管理か、どんなご利益があるのか」と日常管理を学ぶ初学者としては大変興味深いテーマであった。医療機関においては、第三者評価にISOを取り入れる施設も多く、品質管理の考え方は徐々に導入されているが、管理的視点や尺度が全体に浸透しているとはいえない状況にある。今回医療現場における日常管理について、改めて学びたいと思い講習会に参加した。

前半の講義では、具体事例を通して学びを深めた。日常管理の進め方として、SDCAサイクルを回す際、業務をプロセスフローで明確にし、分析していくとお聞きし、自部署での業務の特定と分析にも活用してみたいと思った。具体的な事例から方針管理との違いについても、わかりやすく説明された。管理項目と水準

についての事例を、自部署の医療安全管理に置き換えて考えたり、医療の質管理における不適合に照らし合わせながらお聞きした。教育と訓練については、プロセスの標準化と、上流工程での異常の検出が大切であること、異常を効果的に検出できる項目、役に立つ管理項目を作ることが必要だということが理解できた。

そして、品質意識を高めるためには、「異常を見つけることは良いことである」という文化を作ることと知り、報告しやすい雰囲気を醸成することは、医療安全におけるインシデントレポート提出や、職場で心理的安全性を保つことにもつながると感じた。最後に異常の根本原因の追究として原因追及フローをご紹介いただいた。

後半の質疑応答では、「異常と不適合の違い」「医療現場で日常管理をどう浸透させるか」等の質問があった。講師からは、医療分野においても、個別性を超えた俯瞰的な視点で捉え、その抽象的な中に管理項目を設定してみてもどうか。また品質管理は、身近なところから取り組むとよいというアドバイスをいただいた。学びを臨床現場に活かしていきたい。

深川 良美 (京都大学医学部附属病院)

第128回 クオリティーク ルポ

若手品質管理屋の目 ー品質管理の現場事例レポートと これからの品質管理ー

2022年3月25日(金)第128回クオリティークがリモートで開催され、首記のテーマでトヨタ自動車(株)高岡・堤品質管理部の小茂田氏が興味深い講演をされました。多くの質問が飛びかう刺激的で有意義なクオリティークでした。

氏はスーパーサイエンス・ハイスクール指定高校在学中に米国に研修で滞在した折に日本製品が溢れる状況を目の当りにして、「日本製品が“reasonable”な理由を学ぶ」ために経営システム工学科のある東京工業大学へ進学します。3年生の時に有名な伊奈製陶のタイル実験の講義に興味を持ち宮川教授の研究室に進みます。

最初の話は検査ラインでヘッドランプの高さを調整範囲に入るように調整する事例です。ばらつきの理論値と重回帰分析結果の回帰係数の違いに気づき、「測定誤差があると偏回帰係数は過小に推定される」こと

を数理的に解明されました。2番目の話題は圧力センサの検査工程です。強制駆動後に圧力センサ出力が規定時間以内に既定値まで上がればOKという検査でNGが発生する問題を、既定値に達するまでの時間のばらつきに注目して管理図を書くことで解決されました。

氏は「対象の種類/分布を聞く」ことの重要性を指摘されます。ばらつきを考慮せずに平均だけで分析する悪しき習慣や、前処理で分布を全く考慮しないことに対する警鐘です。「統計的に面白そうなネタは現場にたくさんある」という卓見にも考えさせられます。これは「問題を問題として認識」されず放置された結果ですが、氏の発見能力の高さは「異国から見た日本の姿に驚き」、「検査データ活用に疑問を感じる」点にも現れています。氏の講演のなかで私は次の3点が大切だと思いました。第1に問題を発見に外部の視点が有効であること。裏返すと生え抜きには問題発見が難しいということ。第2は問題を解決するデータサイエンス力。「既存の手法を使い倒す」力ですが、問題発見なくして役立ちません。第3に日常業務から切り離して小茂田氏を現場に放り込むマネジメント力です。

細島 章(東林コンサルティング)

2022年2月・3月の入会者紹介

2022年2月17日の理事会審議および2022年3月23日の理事会において、下記の通り正会員14名、準会員7名、賛助会員2社2口の入会が承認されま

した。

(正会員14名) ○黒田 亮太(総合医療コンサルタント黒田塾) ○鐘 壹(パナソニック) ○平林 三和(京都市立病院) ○前澤 梨花(ENEOS NUC)

○澁谷 健一(AZAPA) ○斎藤 崇雄(名古屋工業大学) ○林 明宏(藤倉コンポジット) ○内田 英夫(中北製作所) ○前田 宏道(竹中工務店) ○山田 丞二(NSKマイクロプレシジョン) ○澁谷 臨(石福金属興業) ○大山 芳郎(TDKラムダ) ○則久 孝志(オークマ) ○菊地 和満(海技大学校)

(準会員7名) ○高田 瑞希(名古屋工業大学) ○張 怡・上坂 一斗(中央大学) ○糟谷 瑞希・池野谷 奏太・WANG ZIRUI・泉脇 颯(電気通信大学)

(賛助会員2社2口)

○中北製作所 ○三井化学

名誉会員：22名

正会員：1681名

準会員：65名

職域会員：49名

賛助会員：153社225口

賛助職域会員：13名

公共会員：17口

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2022年10月～2023年9月(1年間)

申請方法：「新規研究会設置申請書」(様式204-1)をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、メール添付で本部事務局宛にお送りください。
<https://jsqc.org/studygroupentry/>

申込締切：2022年7月1日(金)必着

申込先：jimukyoku@jsqc.org

研究会の申請と運営：

○研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者(学界・産業界)を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。

○研究目的と年間の研究活動計画を作成する。

○1研究会のメンバーは20人までとする。

○会場：Zoom会議室

対面の場合は、原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。

○対面の会議の際、時間は18時～20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。研究会運営費は一人1回当たり1,150円(内訳：通信費・資料代・食事代)。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

行事案内

●第128回研究発表会（本部）

日時：2022年5月28日(土)10:00～17:05

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

10:05～10:55

チュートリアルセッションA

「品質管理の視点からのデータサイエンス」

椿 広計 氏（統計数理研究所）

11:00～11:50

チュートリアルセッションB

「『イコールパートナーと評価される開発提案型企業への成長』をめざしたTQMの推進」

原田 圭二郎 氏（オティックス）

13:00～17:05 研究発表会

申込締切：2022年5月20日(金)

詳細・申込：https://jsqc.org/128technical/

●第132回QCサロン（関西）

テーマ：DXに纏わる疑問と提言

ゲスト：川村 大伸 氏（名古屋工業大学）

日時：2022年6月7日(火)19:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込先：関西支部事務局

詳細：https://jsqc.org/132qcsalon/

●JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会

一品質はプロセスで作るこむー

日時：2022年6月9日(木)13:30～17:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

講師：福丸 典芳 氏

（福丸マネジメントテクノ）

プログラム：

1. JSQC規格「プロセス保証の指針」制定のねらい

2. プロセス保証の役割と構成要素

3. プロセス保証の基本・進め方・ツール(1) 標準化と工程異常の対応

工程能力の調査・改善

4. プロセス保証の基本・進め方・ツール(2) トラブル予測・未然防止、検査・確認

5. 質疑応答

詳細・申込：https://jsqc.org/std21-001_2022/

●第129回クオリティトーク（東日本）

テーマ：生産管理と品質管理

4/MAY 2022, No.396

ゲスト：木内 正光 氏（玉川大学）

日時：2022年7月8日(金)18:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

詳細・申込：https://jsqc.org/129qtalk/

●第177回シンポジウム（関西）

テーマ：製造業における品質不正防止に向けた具体的施策、技術者倫理教育

日時：2022年7月25日(月)13:15～17:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

講演1 技術者倫理の実効性のある実践メカニズム

野瀬 正治 氏（関西学院）

講演2 組織倫理／技術者倫理の実践と技術者の責務～組織の変革に技術者が果たす役割を考える～

細谷 陽三 氏（細谷技術士事務所）

講演3 品質管理者から見た技術倫理と技術者倫理の重要性～技術者倫理を品質マネジメントシステムに組み入れる～

奥野 利明 氏（奥野技術士事務所）

パネルディスカッション

製造業における品質不正防止に向けた具体的施策、技術者倫理教育

上記講演者

詳細・申込：https://jsqc.org/177sympo/

●第432回事業所見学会（西日本・オンライン）

日時：2022年7月28日(木)13:30～16:30

見学先：トヨタ自動車九州(株) 宮田工場

記念講演

会場：オンライン

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

詳細・申込：https://jsqc.org/432visit/

●第129回研究発表会（中部）発表募集

日時：2022年8月24日(水)

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込締切：発表申込締切：5月31日(火)

予稿原稿締切：7月15日(金)必着

参加申込締切：8月17日(水)

詳細・申込：https://jsqc.org/129technical_cfp/

●第130回クオリティトーク（東日本）予告

テーマ：カイゼンと問題解決の本質と実践

第51年度研究助成 追加募集

応募締切：2022年5月31日(火)

詳細：https://jsqc.org/51grants/

第51年度 品質管理推進功労賞 候補者推薦募集中

応募締切：2022年6月30日(木)

詳細：http://jsqc.org/2022ACPQM/

ゲスト：古谷 健夫 氏

（クオリティ・クリエーション）

日時：2022年9月13日(火)18:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

●第130回研究発表会（関西）発表募集

日時：2022年9月16日(金)

会場：関西大学千里山キャンパス（予定）

申込締切：発表申込締切：7月1日(金)

予稿原稿締切：8月26日(金)必着

申込先：関西支部事務局

詳細：https://jsqc.org/130technical_cfp/

●第52回年次大会（予告）

日程：2022年11月12日(土)

会場：中部地区

事務局

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：166-0003

杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

E-mail：jimukyoku@jsqc.org

FAX：03-5378-1507

中部支部：460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会 名古屋支部内

TEL：050-1742-6188

FAX：052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

JRE 堂島タワー11階

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org